

法政大学図書館一〇〇年史：第一編 図書館 通史：第九章 三キャンパス体制への対応 四、付記

河原，由治

(出版者 / Publisher)

法政大学図書館

(開始ページ / Start Page)

279

(終了ページ / End Page)

280

(発行年 / Year)

2006-03

四、付記

図書館創設一〇〇周年記念事業

第二章で詳しく記述されているように、法政大学図書館の始まりは和仏法律学校時代の一八九九（明治三二年）一月閲覧室開室に遡る。一九九九年には一〇〇周年を迎えることから、九七年七月一六日に一〇〇周年記念事業委員会が発足する。この委員会では記念事業として、①図書館史刊行、②展示開催、③シンポジウム実施、を決定した。実施期間は九九年秋と予定し、その後、事業別の三つの委員会が設けられた。最初に活動を開始したのは、調査、準備期間を必要とする図書館史編集委員会であった。編集方針を①資料の発掘に努め、史実を中心に編む、②今後の図書館像についての考察を含める、と定めた。その後、二〇〇〇年までに一〇回の委員会を重ねた他に六回にわたる関係者のヒアリングと調査活動を行っている。

法政大学創立120周年・図書館創設100周年記念
国際シンポジウム報告集

開かれた法政21 伝統と展望

第一セッション 「ボアソナードと法政大学」
第二セッション 「東京の近代化と法政大学」
第三セッション 「大正の書籍の歴史と法政大学」



法政大学図書館
2001.3

図書館創設100周年記念
シンポジウム報告集

展示、シンポジウムは、当初、会場として丸善（株）のギャラリーを使用することで検討が進められていた。一九九八年五月一三日、二〇〇〇年が法政大学一二〇周年にあたることから法政大学一二〇周年記念事業委員会が発足し、図書館一〇〇周年記念事業もその一環として実施することを決定した。このことにより展示、シンポジウムの内容を再検討することになった。実施する時期も二〇〇〇年、会場も九九年四月に完成したボアソナード・タワーを使用することとなった。

展示については、図書館と大学史資料委員会が担当し、大学一二〇年の歴史を約四〇〇点からなる図書・資料の展示と約一〇〇点のパネル、写真、年表で構成した「目で見る法政大学のあゆみ」として実施された。リヨン第三大学から梅謙次郎、富井政章の留学時代に関する貴重な資料提供の協力があり、その責任者としてリヨン第三大学図書館員キャロリン・ゲラール氏を招聘した。実施期間は二〇〇〇年九月二十九日から一〇月一日の二二日間であった。入場者は二〇〇〇名を越し、会場に置かれたアンケートには、常設の展示コーナーを提案する声が多く寄せられた。

シンポジウムは図書館が担当して、「大学図書館の使命と近未来像」として実施することを決めていたが、『国際シンポジウム』の一セッションとして、行うことになり、リヨン第三大学、同図書館の協力を得て新たに加えた「ボアソナードと法政大学」の二つのセッションを実施することになった。「大学図書館の使命と近未来像」には、リヨン第三大学文書総合サービス部次長 ジャン・ベルノン氏、「ボアソナードと法政大学」にはリヨン第三大学前副学長・教授 オリビエ・モレトー氏を講演者として招聘した。『国際シンポジウム』は、一〇月一日から一〇月三日まで開催されたが、この二つのシンポジウムは一日に実施された。開催に当たり、フランス共和国特命全権大使 モリス・グルドー＝モンターニュ氏の挨拶が行われ、会場は二〇〇〇名の入場者でうめつくされた。